

保育目標 心身ともに健やかで、生き生きとした子ども

①やりたいことをみつけ、自ら考え行動する子ども ②豊かな個性をもつ子ども ③自分を好きになれる子ども ④人の気持ちがわかる子ども

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自尊感情の構築	・職員アンケート、保護者アンケートにおいて、「保育者は、子ども一人一人を大切に愛情豊かに関わっている」「職員のお子さんへの接し方について」という項目への肯定的な回答が75%以上になる。	・職員アンケート、保護者アンケート共に95%以上の肯定的な回答があった。今後も引き続き心がけていきたい。
	資質・能力を育む保育の推進	・乳幼児共に、月1回以上フォトミーティングや読み取りを行い、子ども理解を深めて職員間で共有する場をもつ。 ・子どもの姿を共有した上で、室内・園庭環境の再構成を月1回以上行う。	・乳幼児共にフォトミーティングや読み取りを通して職員の子どもの理解は深まりつつある。ただ、そこで共有したことを環境の再構成に十分に活かしてきれていない部分もあった。また、学年クラスを越えて一人一人の子どもの姿の読み取りをしたと考えていたが実現できなかったため、次年度の課題としたい。
	ちがいを認め合える仲間づくり	・保育者が人権意識を高められるように、年2回の研修を行う。 ・「子ども一人一人を大切に受け止める」ということについて話し合う時間をもつ。	・北部ブロックでの研修、自園でのDVD研修、また行事ごとの人権研修などを通して、職員一人一人の人権意識を高めることができた。特に、自園での話し合いでは人権の視点で日々の保育の振り返りを行うことができたことが有意義だった。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	・講師を招いた園内研修を年1回行う。 ・職員が参加した研修での学びや気づきを園内で共有する場をもつ。 ・月に1回以上読み取りを行う中で、子どもの姿から育ちや学びを見つめる視点を職員一人一人が身につける。	・講師を招いた園内研修を通して、職員一人一人のモチベーション向上を図ることができた。 ・参加した研修での学びや気づきを共有しようと心がけてはいるが、自園の保育に活かしてきれていないことは今後の課題である。
	チーム保育の推進	・月1回以上行うフォトミーティングや話し合いの中で、写真や付箋などを使うことで全職員が自分の思いや考えを話せるようにしていく。	・様々な話し合いを通して「チーム保育」という意識はできつつある。学年を越えて連携するという意識も定着しつつあるが、日々の保育の中で学年のことだけに意識が向いてしまうこともあったので、次年度はさらに連携を進めていきたい。
	小学校教育との接続	・昨年度と同様、小学校の「運動会の練習」「音楽会の練習」「業間休みの様子」等を見せてもらったり、小学校に出かける機会を設けたりする。 ・近隣の小学校に自園の園内研修の案内をしったり校内研修に参加したりして、互いの保育教育内容を知る機会をもつ。	・小学校との交流は自園の子ども達が小学校へ遊びに行くという形で定期的に行うことができたので、今後も継続していきたい。 ・小学校の研究会に参加することで、小学校教育への理解を深めることができた。自園の研修会については案内が遅くなってしまい、参加してもらえなかったため、次年度は参加してもらえるように働きかけていきたい。
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。</li> <li>・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。</li> <li>・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。</li> <li>・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。</li> </ul>		